

## メッセージアウトライン ヨハネ17：1~5「目を天に向けて」

イエスは今まで弟子たちに対して語られていたが、それを終わると、「目を天に向けて」(1)、つまり天の父なる神に向けて静かに祈りの姿勢をとられた。

「あなたの子があなたの栄光を現わすために、子の栄光を現わしてください」、これはイエスが十字架の苦難を受けることによって、その栄光を現わし、そしてそのことが実は父なる神から出ている救いの計画だったのだということがわかって、今度は父なる神がほめたたえられ、栄光が現わされるようにとの祈りである。（「栄光」とは卓越したすばらしさの現われ、輝きを意味する）イエスの十字架の死は、罪と死の暗闇に沈んでいたすべての人々に救いの道を開く。そのようにしてイエスは世に勝たれ栄光を現される。

イエスの十字架による贖いの力は全人類に及ぶが、しかしだからといって全人類が自動的に救われるのではない。それはイエスが言われるように、「あなたからいただいたすべての者」(2)、つまり父なる神がこの世から選んで、子なるイエスに与えて下さったすべての人々なのである。またさらに父なる神が選び出された人々にイエスが永遠のいのちを与えるために、父なる神はすべての人々を支配する権威をお与えになったと言われている。この世が、選ばれた人々の群れ、つまり教会を憎み、迫害し、消滅させてしまわないように、「すべての人々を支配する権威」が子なるイエスに与えられているのである。この世の真の支配者はサタンではなくイエスなのである。「その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです」(3)。永遠のいのちとは、単にこの今のいのちがいつまでも続いていくというものではない。そうではなく、それは父なる神と子なるイエス・キリストとの深い人格的な交わりに入れられることなのである。

「あなたがわたしに行なわせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現わしました」(4)これは十字架に至るまでのすべてのわざのことで、時間的にはまだもう少し先のことであるが、イエスはもうそれも成し遂げたものとして取り扱っておられる。このように断言できるお方はまさに神である主イエス・キリスト以外にはない。

「今は、父よ。みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください」(5) このことはイエスの十字架の後の復活と昇天によってその通りになる。イエスは天の父なる神の右の御座に着かれるのである。

このようにしてイエスは地上で父なる神のみこころを行ない、その栄光を現わされた。私たちが神が私たちに任された任務を全うするとき、神の栄光を現わしたとすることができる。

私たちのなすべきこと。→ マタイ28:18~20,黙示2:10,ヤコブ1:22, I テモテ6:12,マタイ25:14~30を参照。

私たちにも「時」がある。この「時」をとらえて、神のために労し、働き、そのようにして神の栄光を私たちの人生で現わすものとなろう。